

# めぐみイエス・キリスト教会

2023年7月2日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第664号」



## 2023年標題聖句

### 第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」p. 412

【交読文】 No.32 詩篇第103篇 p. 905

【賛美Ⅱ】 新聖歌426「世には良き友も」 p. 686

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「愛の国となるために」

【聖書朗読】 使徒の働き28章1節～10節(新約p. 294)

【礼拝説教】 《マルタ島にて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※聖書箇所(使徒の働き28章1節～10節)

28:1 こうして助かってから、私たちはこの島がマルタと呼ばれていることを知った。

28:2 島の人々は私たちに非常に親切にしてくれた。雨が降り出していて寒かったので、彼らは火をたいて私たちみなを迎えてくれた。

28:3 パウロが枯れ枝を一抱え集めて火にくべると、熱気のために一匹のまむしが這い出して来て、彼の手にかみついた。

28:4 島の人々は、この生き物がパウロの手にぶら下がっているのを見て、言い合った。「この人はきっと人殺しだ。海からは救われたが、正義の女神はこの人を生かしておかないのだ。」

28:5 しかし、パウロはその生き物を火の中に振り落として、何の害も受けなかった。

28:6 人々は、彼が今にも腫れ上がってくるか、あるいは急に倒れて

死ぬだろうと待っていた。しかし、いくら待っても彼に何も変わった様子が見えないので、考えを変えて、「この人は神様だ」と言い出した。  
28:7 さて、その場所の近くに、島の長官でプブリウスという名の人の所有地があった。彼は私たちを歓迎して、三日間親切にもてなしてくれた。

28:8 たまたまプブリウスの父が、発熱と下痢で苦しんで床についていた。パウロはその人の所に行って彼に手を置いて祈り、癒やした。

28:9 このことがあってから、島にいたほかの病人たちもやって来て、癒やしを受けた。

28:10 また人々は私たちに深い尊敬を表し、私たちが船出するときには、必要な物を用意してくれた。

### ●ポイント1.「マルタ島」とは？

■ **マルタ** 「蜜」という意味。シシリー島の南方にある地中海の小島。この島は古くからフェニキヤ人やギリシヤ人によって開拓された。カルタゴ人の支配下にあった時代を経て、紀元前218年にはローマのシシリー州に合併された。島の人々は土着語(カルタゴ語の方言)を常用語とし、独自の文化を持っていた。首都ヴァレッタの北西にパウロが漂着したと伝えられる「パウロの湾」という砂浜がある。

### ●ポイント2.「プブリウス(ポプリオ)」とは？

■ **ポプリオ** パウロはローマへの途中、難船し、マルタ島に上陸したが、ポプリオはその島の首長であった。彼はパウロたちを招待して、三日間手厚くもてなした。彼の父が熱病と下痢で苦しんでいた時、パウロは彼をいやした。ポプリオはラテン語プブリウスのギリシヤ語名である。碑文から知られる称号から見ると、彼は島におけるローマの最高の地位にあった。もともとマルタ島の出身であったと思われる。

### ●ポイント3.「パウロがマルタ島にて行なった奇跡」とは？

※マルコの福音書16章17節～18節「主イエス様の言葉」(新約p.105)

## ◎先週の礼拝メッセージ【航海の果てに】

《「良い港」を出航してから、十四日目の夜の事です。水夫たちはどこかの陸地に近づいていることを知り、船から逃げ出そうとして、小舟を海に降ろしました。パウロは百人隊長に告げます。「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助かりません」と。

御使いはパウロに、『神は同船している人たちを、みなあなたに与えています』と、言われました。船に乗っていれば、彼らは助かるのです。しかし、逃げ出したのなら、彼らは、全員死ぬこととなります。

かつて、主イエスは、十二弟子たちに、「私に留まりなさい。私もあなたがたの中に留まります。あなたがたが私に留まり、私の言葉があなたがたに留まっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」と、言われました。主イエスに、そしてみ言葉に留まる必要があるのです。

夜が明けかけた頃、パウロは一同に食事をするように勧めます。「今日で十四日、あなたがたは、何も口に入れず、食べることなく過ごしてきました。ですから、食事をするよう勧めます。これで、あなたがたは助かります。頭から髪の毛一本失われることはありません。」

この言葉は、主イエスが弟子たちに語られた言葉でもあります。パウロはパンを取り、一同の前で神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めました。この場面は、主が復活されたその日に、クレオパ夫妻に現われ、エマオにおいて、なされたことと同じです。

さて、パウロの呼びかけによって、皆も元気づけられ、食事を取りました。やがて、船は座礁し、百人隊長ユリウスは、泳げる者たちがまず海に飛び込み、残りの者たちは、板切れや何かにつかまって行くようにと命じます。そして奇跡的に、全員が無事に陸に上がったのです。私たちも、主イエス・キリストと言う船に乗っています。この船に乗っている限り、必ず御国と言う目的地に着くのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、7月9日(日)午前10時からです。